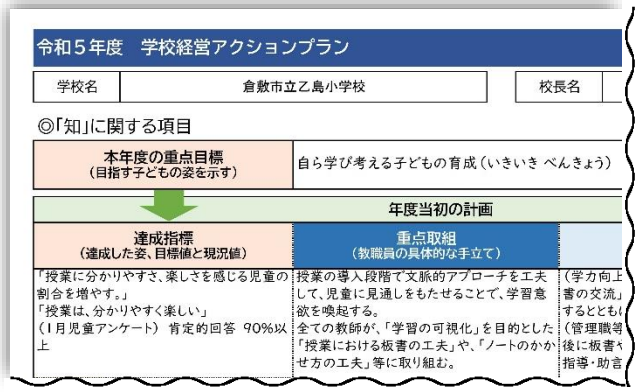
乙島っ子

令和５年度　ＮＯ．２２
令和５年１１月２４日　倉敷市立乙島小学校

中間期… 今後、一緒にがんばっていきたいこと



令和５年度　学校経営アクションプラン

学校名	倉敷市立乙島小学校	校長名

◎「知」に関する項目

本年度の重点目標（目指す子どもの姿を示す）	自ら学び考える子どもの育成（いきいき べんきょう）

年度当初の計画

達成指標（達成した姿、目標値と現況値）	重点取組（教職員の具体的な手立て）	
「授業に分かりやすさ、楽しさを感じる児童の割合を増やす。」 「授業は、分かりやすく楽しい」 （1月児童アンケート）肯定的回答 90%以上	授業の導入段階で文脈的アプローチを工夫して、児童に見通しをもたせることで、学習意欲を喚起する。 全ての教師が、「学習の可視化」を目的とした「授業における板書の工夫」や、「ノートのかかせ方の工夫」等に取り組む。	（学力向上 書の交流」 するとともに （管理職等 後に板書や 指導・助言

県下各小・中学校では、校長が、右に示す「学校経営アクションプラン」を教職員に提示し、「一年間」を目標設定から評価に至るまでの取組期間とし、それこそ、プロジェクト的な教育活動を推進してきています。先月、中間期評価を県教委の方と終え、年度後半は次のことに重点的に取り組んでいきます。

その1　地域とのふれあい＠「にこにこ あいさつ」

あいさつの「レベル９」の姿

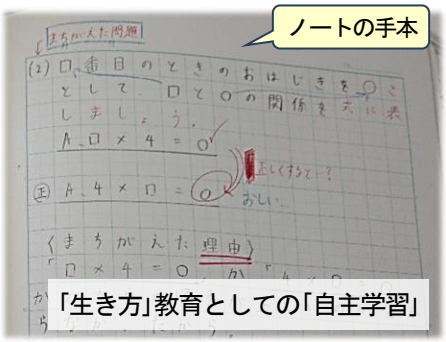
中間期の振り返りを経て、「地域の方へのあいさつの在り方」が課題として再確認されました。児童とは、「『レベル１』の『会釈』を目指そう」と、目標を共有しました。「通学は、おもしろくなくてよい」とは伝えてきていますが、それでも…ね。また、「行動で返す」という「レベル９」のあいさつに及ぶ児童も出てきています。

先生、ポール折れてました

その2 「真似び」のノート＠「いきいき べんきょう」

「真似び」に始まり、「真似び」に終わる

「ノートの大切さ」を再認識しています。学びを「自覚」し、「蓄積する」という「ノート」の機能を全児童、全教職員で共通理解し、「真似び」を基調とした「ノート指導」に、全ての教師が取り組みます。また、そこから、「自らの学びを創る」という「生き方」教育としての「自主学習」にも、「真似び」を通して、重点的に取り組みます。



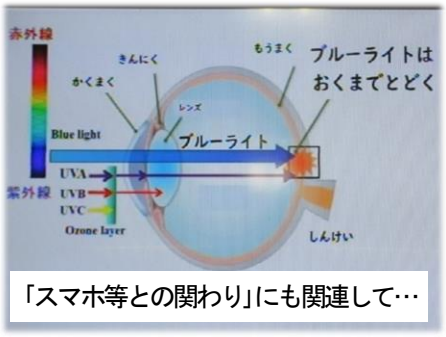
「生き方」教育としての「自主学習」

その3　体力みがき＠「のびのび うんどう」

「握力」を窓口として…

コロナ禍を経て、児童生徒の体力不足が全国的に課題となっています。行政も、「体力向上担当者」の配置を求めている中、学校では、先進校の取組に倣い、「握力」を窓口として、「体力みがき」に取り組み始めました。

また、スマホ等との関わり方の課題には、学校保健委員会が、「目の健康」を視点に、解決に取り組みます。



「スマホ等との関わり」にも関連して…

※ カラー版を Web ページに掲載しています。ご覧ください。→http://www.kurashiki-oky.ed.jp/otoshima-e/letter_3_2_2_5.html